

(長岡京市) 自分ごと化会議 in 長岡京 第1回議事メモ

分科会	第2分科会(防災・防犯)
コーディネーター	高澤 良英
ナビゲーター	なし
説明担当者(自治体)	なし
日時	2020年 12月12日(土) 14時20分から16時
場所	長岡京市立中央生涯学習センター6階 創作室1
その他	参加者数 <u>19</u> 名 欠席者数 <u>8</u> 名

趣旨・概要

各回の目標や進め方を記入する。

- 自己紹介(名前、お住まいの地区、普段どういふことをしているか、好きなみそ汁の具、防災・防犯で気になっていることや困っていること)
- 会長・副会長の選出
- テーマ(防災・防犯)についての意見・課題の整理

総括

コーディネーター総括

- 防災・防犯で様々な意見が出た中で、防災も防犯も人と人とのつながりが大切であるが、人間関係が希薄になってきている中で、要配慮者をどう支援していくかという議論を行った。

主な論点

論点① 災害時の要配慮者について

- ・要配慮者の名簿を作成しているが、救助者とのマッチングがうまくいっていない。
- ・個人情報のため、自治会長と民生委員しか情報を持っていない。
- ・人間関係が希薄化している中で、要配慮者などの情報共有が困難。
- ・自治会に未加入の方までカバーしていくのは難しい。

論点② 自治会の加入について

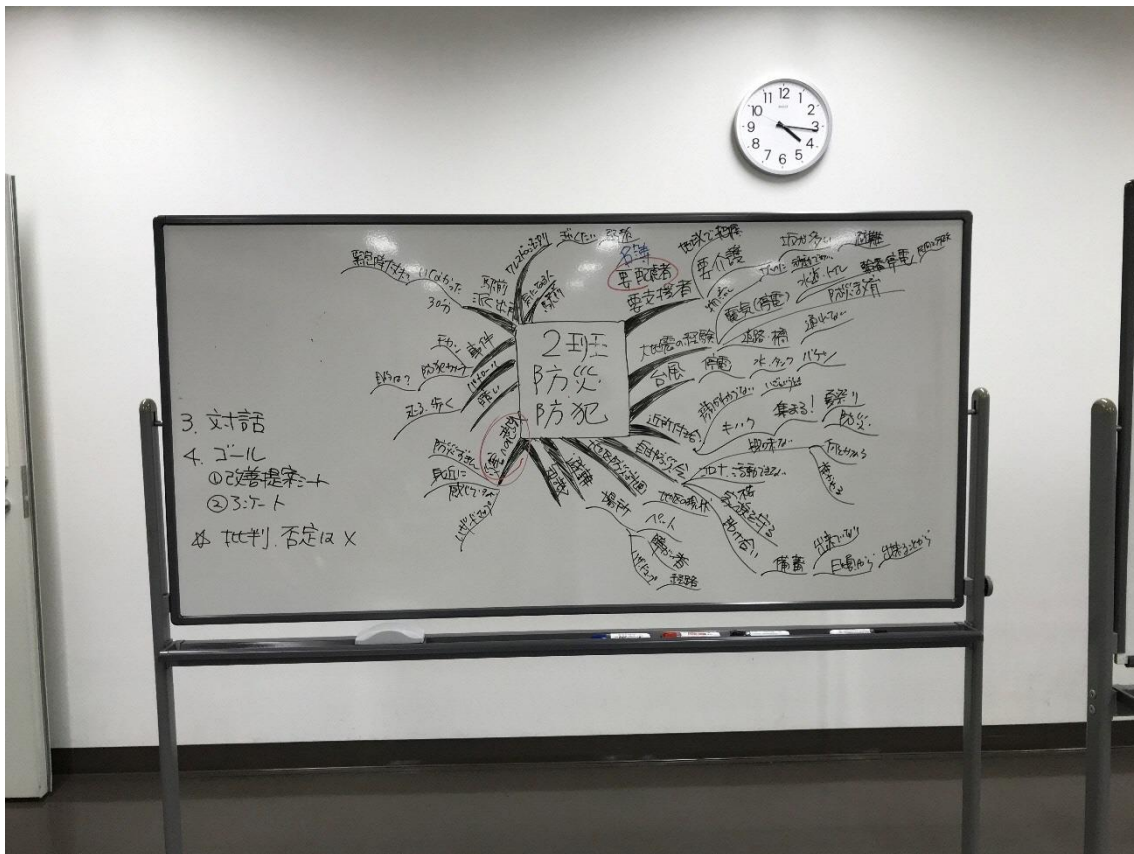
- ・引っ越した際に隣近所に挨拶をしても、そのあとのつながりがない。
自治会に入りませんかという案内もない。
- ・市での取り組みとして、不動産業者のほうから契約時に案内をしてもらうよう協定を結んでいる。市役所の転入窓口で自治会の案内、自治会からの訪問による勧誘の3段階で

メ)：分科会メンバー、コ)：コーディネーター、P)：市PT、市)：説明担当者

加入を呼び掛けている。

- ・知り合いがいなくても地域行事に参加することによって自分の状況を知ってもらえて、声掛けをしてもらえるので、積極的に参加したほうがいい。近所にどんな方が住んでいるかが分かるということが、防災・防犯のすべてにつながってくる。

ホワイトボードの写真



協議の流れ

- コ) 今日はまず自己紹介をしていただく。名前、お住まいの地区、普段どうしているか、好きなみそ汁の具、今日のテーマである防災防犯で気になっていることや困っていることを発表していただく。そのあとテーマについて話し合っていくという流れ。みそ汁の具を入れたのは、例えばこのメンバーで、買い物でばったり出会ったときに名前が出てこなくても、みそ汁の具は思い出せるから。みそ汁の具で故郷がどこかが分かる場合もあって面白い。自己紹介後に会長・副会長を選出する。皆さんの意見をまとめる仕事ではなく、全体会で班の議論の内容を発表する役目となる。そのあと防災・防犯について話を深めていく対話の時間とする。答えを出すのではなく、課題を発散していく作業を今日と次回でやっていく。先に解決策を出すよりも、何が

メ) : 分科会メンバー、コ) : コーディネーター、P) : 市 PT、市) : 説明担当者

(様式3)

課題かをしっかりと話し合うことが重要。今日のゴールは改善提案シートの課題の欄を書くこと。最後にアンケートを書いて提出いただく。皆さんにお願いしたいのは、意見の批判や否定をしないこと。例えば自治会に入らないことを批判するのではなく、なぜ自治会に入らないかを考えるのがこの場。○×をつける会議ではない。

では自己紹介を私から。千葉県市原市の職員。市原市は知らない方が多いと思う。昨年の房総半島台風でゴルフ練習場の鉄塔が倒れたところ。あの現場は我が家から1kmほど。市役所では企画部長をしている。市長が打ち出した政策の調整が主な仕事。例えば子育てという分野では、保育所や学校、教育委員会や土木などの部局間の調整を主にやっている。家に帰ると、妻と母親の調整をしている。住民の方とお話することは大事だと思っている。声の大きい人の意見や数の大きい意見だけでなく、地道に話し合いをすることが大事。今日は無作為抽出で3%の方が集まってくれた。アイスのガリガリ君に当たるより大変な確率らしい。生まれも育ちも千葉だが、大学だけ西宮。好きなみそ汁の具はあさり。千葉県のなかでも東京湾に近いところに住んでいる。防犯・防災に関しては、防災士の資格を持っている。以前は総務で危機管理の仕事を担当していた。問題意識を持っているほうだと思う。マスクをしていると表情が分からないので、うなずいたり、拍手したり、リアクションを取っていただければと思う。

自己紹介

会長・副会長の選出

- コ) それでは会長・副会長を決めたい。
 - メ) 無作為ではなく、役職で来ている方にやってもらったほうがいいのでは。横のつながりもあるので。
- ～ 会長・副会長 決定 ～

意見の整理

- コ) ホワイトボードにマインドマップを書いた。いろいろな意見を繋げるときに使う手法。この中で気になることを深めていきたい。共感できることや付け加えたいことなどはあるか。日ごろからできることをやるというのは防災で大事。普段やっていないことは非日常でできない。
- メ) 要配慮者の話が出たが、大切なことだと思う。要配慮者がどういった状況で、どういった形で救助したらよいかなどの情報がないのが現状だと思う。
- コ) 要配慮者とは、障がい者や寝たきりの方など、災害時に一人で逃げられない方のこと。その情報が地域で共有できていないという問題がある。長岡京市では要配慮者の名簿は地域で共有されているのか。
- メ) 自治会長と民生委員が持っている。プライバシーの問題があるので門外不出。毎年更

メ)：分科会メンバー、コ)：コーディネーター、P)：市PT、市)：説明担当者

(様式3)

新している。救助が必要な方と救助する方を縁組する。そこを繋ぐのが難しい。うちのマンションでも苦勞している。

- コ) いざ災害が起きた時に、誰が助けるのかを決めるのが個別支援計画というものになる。
- メ) 市から要配慮者の名簿が自治会長と民生委員に届く。私も3年間自治会長を務めていた。開示してはいけないといわれたが、60人ほどいるので、自治会長と民生委員だけでは助けられない。最近は開示していいことになった。高齢者だと子供が市外に住んでいて緊急時に来られない。迷惑をかけたくないという人も。状況をしっかりと把握するために自治会で自主的にアンケートを配り、9割ほど回答があった。隣近所に助けてくれる人がいると安心という声が非常に多かった。自治会を挙げて名簿を今作っている最中。若い人でも身体に障がいがあって動けない人がいる。市の名簿では間に合わない。
- メ) 高齢になると自治会を辞めていかれる。自治会員はやりようがあるが、辞めた方までカバーしていくのは非常に難しい。空白が生じている。市も自治会も民生委員も対応できない。
- メ) 障がいをお持ちの方で把握できていない方や、引きこもりの方が見えにくいというのは意識しておかないといけない。
- メ) 要配慮者などについてそもそもよくわかっていない。2年ほど前に引っ越してきたが、自治会があることも知らない。引っ越した際に隣近所に挨拶をしても、そのあとのつながりがない。新興住宅街に家を買ったが、まわりが30～40代の子育て世帯で自分は子供がいないので、親同士の付き合いに入れない。自治会に入りませんかという案内もない。
- コ) 自治会の加入の案内については長岡京市ではどうなっているのか。
- メ) 私の自治会では、新築のところに班長がチラシを持って声掛けをしている。町内だよりを作って情報が伝わるように努めている。子供がいる場合は子供会にも入ってもらうようにしている。
- 市) 市での取り組みとして、不動産業者のほうから契約時に案内をしてもらうよう協定を結んでいる。また市役所の転入窓口で自治会の案内をしている。また先ほどおっしゃられたように自治会からの訪問による勧誘。この3段階。
- コ) 漏れもあるのかもしれない。
- メ) 要配慮者という言葉は初めて聞いた。名簿について、個人情報の流出がネックになっているが、国勢調査などで把握できるのではないかと思う。自治会などの組織ではカバーできない部分について行政が甘えている部分があるのではないか。わかるはずなのにケアできていないのは仕組みが悪い気がする。自治会ができないのであれば行政がやることになると思う。
- コ) 仕組みは全国で同じようなもの。名簿を役所が作成し、それを自治会長や民生委員にお渡ししている。誰が助けに行くか、という部分が難しい。

メ)：分科会メンバー、コ)：コーディネーター、P)：市PT、市)：説明担当者

(様式3)

- メ) 制度の名簿の作り方は、国勢調査とは全く関係ない。名簿は民生委員さんが各戸訪問して作ってくださったもの。それを市役所がとりまとめ、自治会長や民生委員に提供される。あとのマッチングは自治会に委ねられる。うまくやっている自治会もある。歴史のあるところはうまくやられている。
- メ) 配慮が必要な方がすべて登録しているかは分からない。結構ですと言われる方もいる。自治会未組織のところもある。いざ災害が起こったときには、自分のことで精一杯で助けに行けないかもしれない。昔から住んでいる方の中には、「昔都があったところは災害が起きない」と話す方もいて、意識の差を感じる。
- コ) 要配慮者の話が出たので、この仕組みについて次回市役所の方から説明していただくと思う。
- メ) 要配慮者でなくても、建物が倒壊したら支援が必要になる。一人暮らしの方なども情報共有が必要。
- コ) 長岡京市は阪神淡路大震災のときあまり揺れなかった？阪神淡路大震災では家具などが倒壊して亡くなった方が多かった。助かった人の8割は近所の人に助けられている。公助だけでは犠牲者を減らせない。新潟地震でも地域の助け合いがあったので被害者が少なかった。若い方の意見・感想は？
- メ) 考えたことすらなかったというのが正直な感想。子供たちでも考え直すべきだと思った。話にあまりついていけなかった。
- メ) 無知だったので、勉強してからくればよかったと思った。自治会に入ることが大切だと思ったが、時間が取れないと感じている。
- メ) いろんな人の意見を聞く機会が無かったので、防災について何が大切か学ぶことができた。
- メ) 勉強になることばかりだった。要介護者という言葉は聞いたことがあったが、要配慮者という言葉は初めて聞いた。介護と配慮の違いを一人で考えた。見た目では分からなくても助けが必要な方がいるのかなと。災害時に地域で連携することの難しさを感じた。
- メ) 埼玉に住んでいた時に、自治会長が持っているマンションに住んでいた。自治会の芋ほりに誘われて、知り合いがいないので最初は断ったが、知り合いがいないからこそ地域の行事に参加することによって自分の状況を知ってもらえて、声掛けをしてもらえるので、積極的に参加したほうがいいと言われた。近所にどんな方が住んでいるかが分かるということが、防災・防犯のすべてにつながってくると思った。
- メ) 井戸端会議みたいになると意味がない。次回話を区切ってやるというテーマがブレンドされていいと思った。
- コ) 最初に話したとおり、しばらくは発散の議論をしていきたい。解決策から話してしまうのではなく、何に困っているのかをきちんと話し合っていきたい。
- メ) 話題が防災のほうにいつてしまう。防犯についても話していきたい。
- コ) 時間がきたので、アンケートと改善提案シートの課題欄を書いていただき解散とし

メ)：分科会メンバー、コ)：コーディネーター、P)：市PT、市)：説明担当者

たい。用事があって1回休んでも、ぜひ来られるときに来てほしい。

次回の分科会に向けた準備

次回の分科会の目標

- 要配慮者という言葉を知らない無作為の方もいたので、次回は要配慮者についてしっかり説明していただきたい。所管は福祉の方と危機管理の両方かと思う。
- 地域で困っていることから、問題の背景にあるものを話していきたい。

次回の分科会に向け準備する資料等

- 上記内容に沿った資料を作成のうえ配布。

備考 (その他、記録すべき事項を適宜追加)